

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご利用者の気持ちになって、その人らしい暮らしが続けられるようにどう支えていけばよいか、職員全員で検討しあい独自の理念をつくった。また、地域の中で暮らすということはどう支援していくのか考え、話し合いをしている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ご利用者の日々の暮らしを支えていく為の志として、常に目に付くところに掲示し日々取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご利用者が、施設の中だけではなく「地域の中で暮らす」ということを家族や地域の自治会、民生委員、近隣住民等に理解してもらえよう、事業所の説明をしたり協力を依頼したりしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事にふれあったり、出退勤時に会う近隣の方に気軽に声掛け合う等日常的な付き合いが出来るよう努めている。また、近隣から見学を兼ねて事業の内容を聞きに来られることもある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は、通学路になっているので学童時の「おたすけハウス」等の表示をするなどPTAとの協力がある。地域の公民館で開かれる催しに参加し、地元の人々と交流することに努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で暮らす高齢者の方に役立ててもらおうと、認知症サポーターとして活躍できるよう研修等に参加したり、事業所で出来ることを話し合ったりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をすることで、事業所や自分を見直すことができ、改善しなくてはいけないことや何を取り組めばいいのかなど、見失いがちの方向性を修正できたりしている。また、日頃、当たり前のようになっていることを再確認している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所での取り組みなどの報告を行ない、評価や意見をメンバー以外の家族や職員にも報告しサービスの質の向上に努めている。また、地域の高齢者の生活状況などの情報交換をし地域への参加も活かすようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営に関することや相談ごとなど、出来るだけ市町村に出向き話す機会をつくっている。また、市町村が行なう研修等に参加し意見交換やスキルアップ、質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護、成年後見制度についての研修等に参加し知識を得ている。必要な人にはそれらを活用できるよう話し合いをし支援する体制がある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連の研修等でそれらを学び、ご利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされないように、ご利用者の訴えや身体に注意を払い防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約の際は、ご利用者やご家族等に十分な説明と疑問点等を尋ね理解・納得を図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は、日常からご利用者の意見、不満、苦情を聞く機会を持ち、介護相談員からの報告等それらを運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご利用者の日頃の様子や健康状態、事業所の変化等を、家族等に毎月のお便り、又は個々に合わせて報告をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、又は家族会や運営推進会議等でご家族からの意見、不満、苦情を表せる機会を持ちそれらを運営に反映している。意見箱の設置もあるが活用されてない。ご家族は、直接、管理者や職員に言ってこられることが多い。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、ミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、運営者に伝えたり、運営に反映できるよう努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者やご家族の状況の変化などに柔軟に対応するために、必要な時間帯の勤務調整や職員配置の話し合いをし対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ご利用者が馴染みの職員等の支援を継続できるように、移動の規定は無く、離職も最小限に抑えられるよう理由への配慮や産休・育児休後の復帰がスムーズに出来るよう、ミーティングに参加してもらうなど利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間で研修計画を立て、全職員がそれを受けようとしている。認知症の専門職として知識・技術の向上の為、様々な研修を受けれるようにしている。月に1回、事業所内で勉強会を開いている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、他事業所との交流や研修会等に参加しサービスの質の向上に努めている。また、同法人のグループホーム間で職場研修(実習)を行なう等の取り組みもある。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	精神的なストレスが大きい職場なので、職員の個性にあわせて得意なことが発揮できたり、苦手な部分を支えられるようにシフトの組み方や教えあう機会が持てるよう工夫している。職員の歓迎会や季節に応じた行事などでコミュニケーションを図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	事業所内で、職員個々に責任を持つ場所を設け管理してもらっている。個々で、研究したことや勉強したことを発表できる機会を設けている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用が始まるまでに数回、自宅を訪問し困っていることや不安なこと、求めていること等を聞いたりし信頼関係を築けるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用が始まるまでに、家族の困っていることや不安なこと等を聞く機会を持ち相談・助言等の支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人、ご家族がどのような状況なのかを把握し必要な支援を見極め、ニーズに適したサービスが受けられるよう対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用ができるように、見学をしてもらいレクリエーションに参加したりお茶を飲んでいただいたりして、職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、ご利用者と共に生活をするという姿勢で対応し、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし学んだり支えあう関係を築いている。昔取ったきねづかで学ぶことも多い。和裁や料理など。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と共に本人を支えていく姿勢があり行事などを一緒に楽しんだり相談したりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	センター方式等の様式を利用し、これまでの本人と家族との関係を理解するよう努めより良い関係が築いていけるよう努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの本人のかかわりが途切れないように、馴染みの場所や人との関係を出来るだけ保てるよう支援に努めている。理容室やご主人のお見舞い等。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良いご利用者同士や性格を把握し、食事の席やレクリエーションの方法等を考慮し支えあえるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した以降も、移り変わった施設等へ面会に行ったり年賀状を出す等その後の様子が分かるよう付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式等の様式を使い、思いや意向の把握に努めている。家族と相談したり、本人の様子を見ながらニーズの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等の様式を使い、これまでの暮らしの把握に努めている。家族にも時間をかけて少しでも多くの情報をもらえるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの持っている力や1日の過ごし方を、ケアを行ないつつ把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らす為に、本人の状況や家族、職員の意見等を反映させた話し合いをし介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、毎月、担当職員ほか数名でモニターリングしプランの評価や変化が生じた場合の見直しを行い現状に即した計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアは、個別に記録し実践、結果、気づきやアイデア等記入するようになっている。毎日の申し送りや報告したり話し合ったりし介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、柔軟な対応で支援している。家族がいけない時の受診の付き添いや、個々の買い物支援、自由な時間の面会や外出等。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の中で暮らしていけるよう、民生委員や近隣に事業所の特色を説明し協力を得ながら支援している。地域の行事や離設時の対応等。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のサービスを利用する考えはあるが、現在までにその要望や状況はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議のメンバーにもなっているので、総合的に相談したり協力し合うようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医の継続と情報の提供を行い適切な医療が受けられるように支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関は、事業所の関連病院で認知症に詳しい医師がいるので相談したり、利用者が認知症に関する診療や治療を受けられるよう支援する体制がある。診療科目に歯科もあるため認知症に対する医師の理解もある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所の看護職員や関連病院の看護職員に気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援が来ている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時は、病院関係者との情報交換や相談をし、早期に退院できるよう努めている。また、本人や家族の不安や困りごとについて解決できるよう話し合いをしたりしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りまでを希望されるご家族が多く、重度化した場合や終末期のあり方について、本人又は家族等並びにかかりつけ医と充分、話し合いをし全員で方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りまでを希望するご家族が増えてきているため、事業所で出来るだけ対応していけるように研修に参加したり、出来ること・出来ないことの見極めやかかりつけ医との相談等、今後に備えて検討しあっている。また、6月から医療連携体制加算を出あ来るよう準備が整っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの時は、双方で情報交換しその時期や予測できるダメージ等について本人に関わる関係者と充分話し合いをし、移り住む方の見学や体験をし環境などに対応できるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないように、トイレの声かけやさりげない更衣の手伝い、入浴時の気遣い、物忘れに対する対応の仕方など本人を傷つけないよう支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人が自分で決めて生活していけるように、本人の力に合わせた説明を行い、行動や嗜好品等の選択をする場面作りなど自分らしい暮らしの支援をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、その人らしい暮らしが出来るよう本人のペースや希望に沿って支援している。認知症によってその人らしい暮らしが壊されないように健康管理や共に暮らすものとして共有した時間のアドバイス等をし生活を支援している。職員側の決まりごとは一つの案にすぎない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	日中は私服に着替え、TPOに合わせて衣服を選択したり、化粧品が無くなったら終わりではなく継続しておしゃれができるよう維持したり理・美容は馴染みや望む店にいけるように努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力量や好み、咀嚼・嚥下の状態等を考慮し食事が楽しみなものになるように買出し、調理、配膳、片付け等の一緒に行なったり本人の状態に合わせて食事形態を変えたりしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人らしい生き方を変更しなくて済むように、嗜好のものは継続して楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、気持ちよく排泄できるように支援している。出来る限りオムツの使用をしなくて済むように、色々試しながら最良の方法を模索している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ普通の入浴時間(夕方～寝る前)にあわせて支援している。本人の健康状態や習慣に応じて入浴時間を決めたり希望やタイミングにあわせて入浴を楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり就寝時間が異なり、その方の生活習慣や状態に応じて気持ちよく眠れるように支援している。不安や不眠がある時はじっくり話を聞いたりお茶を飲んだりしながら安心できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の存在感や暮らしがここにあると実感できるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、日課、外出・外食などの楽しみ、近隣の変化を楽しむ散歩等、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することで安心したり、買い物で支払いをすることで金銭感覚を持ったりとお金を持つことの大切さを理解し支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋内で過ごしがちになるので、気分転換が図れるように散歩やドライブ等に出かけている。個別に希望がある時は家族とも相談しながら支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段ではなかなかいけな温泉や名所等は、計画を立て家族とも出かけられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者が家族や大切な人に連絡を取りたい時は、電話や手紙等のやり取りが出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人等の訪問時は、居心地良く過ごせるよう場所やお茶等に配慮している。また、いつでも訪問できるようになっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者は身体拘束廃止推進委員の研修を受けており、全職員へ周知し実施している。また、他の職員もそれに関する研修等を受けている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関には鍵をかけていない。敷地内の柵は、事業所が交通量の多い道路沿いにあることもあり生命の危険性が高いので、時間を決めて開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者のプライバシーに配慮しながら、所在の確認や様子を把握し安全に過ごせるよう支援している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や刃物等危険性のあるものは、決められた場所に収納し必要な時に直ぐ使えるようにしている。所定の場所に無い時は、お互い注意しあっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策のマニュアルを作成している。平成17年の台風災害を教訓に災害に対する知識も学び、ハザードマップを掲示し避難場所の確認など周知している。ご利用者の状態に合わせてケアを行ない事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ご利用者の急変や事故に備えて、応急手当の方法や研修に参加している。AEDを備え、救急蘇生法の研修も受け全職員に周知している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災等の災害に備え、避難方法を身につけ、近隣にも協力してもらえよう働きかけている。ハザードマップにて避難場所の確認や方法等全職員で周知している。年に2回防火・避難訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	出来るだけ普通の暮らし(自分らしい暮らし)をしていく為に、身体機能の低下や認知症による理解力の低下等により様々な危険性があることは、契約時、及び状態の変化があるときに家族と話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、健康チェックをし記録、報告、伝達を行い情報を共有し把握している。変化がある時は、速やかに対応している。本年6月から医療連携体制加算の算定をしており、訪問看護との契約で定期的にご利用者の健康、医療面をみて行く体制がある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、ご利用者が使用している服薬について作用、副作用、用法等の理解をしており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、便秘の及ぼす影響を理解しており、排泄・水分量のチェック、食事の工夫、運動の働きかけ等の取り組みがある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、毎食後の歯磨きの支援、就寝前には義歯洗浄を行うなど口腔内の清潔保持に心がけている。歯磨きが困難なご利用者には、お茶でうがいをしたり、スポンジブラシで磨いたり支援をしている。また、訪問歯科による検診を毎月行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、出来るだけ多種の食種が取れるよう量やバランスの調節を行い、摂取量、水分量をチェックするようにしている。また、本人の状態に合わせて、食事形態を工夫したり好みに合わせて提供するようにしている。摂取量が少ない時は、本人の好むもので補ったりしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し周知している。毎年、インフルエンザの予防接種をご利用者・職員全員受けるようにしている。また、関連する研修等に参加している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は、毎食、買い物に行き新鮮なものを使用している。冷蔵庫は、毎週、食品のチェックや庫内の消毒・清掃をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や建物周囲は、普通の戸建てと変わりなく親しみやすい環境にある。また、見通しが良いように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は季節の花や小物を飾り、食堂・居間は不快感がないように光や音に配慮し居心地良く過ごせるような工夫をしている。トイレ・浴室の使用していない時は、整理整頓しいつでも清潔に使えるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、思い思いに過ごせるよう気の合う同士や個々の習慣等に配慮し居場所の工夫している。それぞれに自分の居場所がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は環境の変化を最小限に留める為、永年使用してきたものや馴染みの者を持ち込んでもらい、遠慮や違和感がなく居心地良く過ごせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ご利用者の起床後は、窓を開けて換気をし空気のだよみを解消している。就寝中は気持ちよく睡眠が取れるよう随時、空調の温度調節をしている。日中も部屋と廊下・トイレ等との温度変化が無いように気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、出来るだけ自立して生活できるよう手すりや洗面台の鏡・手拭タオルの高さ、洗濯物干しの道具等工夫している。玄関の段差にはスロープを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	季節や日時が分かるように、各部屋にはカレンダー、時計を置いている。部屋が分からなくなる方は、目印や矢印などの表示をし自分で戻れるよう工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に花を植えたり、ベランダに布団を干す等楽しんだり、活用できるよう活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・清潔感があり、事業所ゴミ等の臭いや建物周囲の外観に違和感が無いように配慮している。また、ご利用者のより良い生活を支援出来るように、認知症専門職としての知識・技術の向上の為様々な研修等に参加している。